

令和6年度第1回浦安市学校給食センター運営委員会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時：令和6年7月8日（月）午後2時～午後4時
- 2 開催場所：浦安市消防本部3階 多目的ホール
- 3 出席者
（委員）鈴木会長、宮川委員、増井委員、下間委員、栗原委員、北尾委員、
小田委員、田中委員、澤田委員、菅原委員、田邊委員
（教育委員会）大塚教育総務部長、落合教育総務部次長、峯崎保健体育安全課長、
本沢千鳥学校給食センター所長、事務局7人
- 4 傍聴人：なし
- 5 議事概要及び会議経過
開会前に、新規委員への委嘱状交付及び自己紹介を行った。
 - （1）審議事項
 - ア 会長の選任について
「浦安市学校給食センター運営委員会規則」第4条第2項に基づき、互選により、鈴木委員が選出された。
 - イ 副会長の選任について
同規則第4条第3項に基づき、鈴木会長が原田委員を副会長に選任した。
 - （2）報告事項
「ア 浦安市学校給食センター運営委員について」及び「イ 浦安市給食センター運営方針」について、事務局より説明した。委員からの主な質問及び意見は、次のとおり。
（委員） 第三調理場では給食の食べ残しをリサイクルしているとのことだが、第一及び第二調理場は、どの様にリサイクルされているのか。
（事務局） 発電や家畜の飼料にリサイクルしている。
 - （3）その他
 - ア 学校給食の食べ残しについて
学校給食の食べ残しについて、事務局より残渣の現状と市の取り組みについて説明した。委員からの主な質問及び意見は、次のとおり。
（委員） 中学生は、ダイエットを意識する子がいて、ご飯が残っていた。一方で、部活をしている子は、放課後に部活をするので、お腹がすかないように給食を残さず食べていた。この様に、食べる子と、食べない子がいるので、一律した食べ残しを減らす取り組みは、難しいと感じている。
（委員） ふりかけの日や味付けご飯の日は、残渣率が変わるのか。
（事務局） ふりかけの有無で、残渣率に大きな差はないと感じている。
（委員） 学校給食摂取基準は守らなければいけないのか。ご飯が余るのであ

れば、ご飯の量を減らして提供できないのか。子供たちの口に合わない食材を、子ども達の成長によいからと提供することは、大人が押し付けている感じがある。食べてもらえない料理の提供を止め、食べ残しが少ない料理を提供することはできないのか。

- (委員)・学校給食摂取基準は、どのくらいのエネルギー量や栄養成分を摂ったらよいか厚生労働省が定めている「日本人の食事摂取基準」を基に、子どもたちの食習慣を踏まえ、学校給食での摂取量を文部科学省が定めているもの。家庭内で十分摂れていない栄養成分を学校給食で補う意味も含めて定められているのが、学校給食摂取基準である。
- ・学校給食は、子供たちが様々な食材や料理に触れる貴重な機会の提供の場であり、学習の場であると考えている。人気のない料理との理由で提供することを止めるのはよくない。触れる機会がない食材ほど、学校で取り扱って、子供たちが食べる機会を持つことができるのは、非常に貴重な機会であると思う。一方で、残渣という視点から考えると難しいとも思っている。
- (委員) ご飯の残渣率を達成するための目標値として、一人一食当たりどのくらいの量を食べる必要があるのか。給食センターから具体的な量の発信があれば、子供たちもわかりやすいと思う。
- (会長) 残渣率だけを気にすると、残渣率何%が良い・悪いという発想になると思うが、実際には一人ひとり食べる量が違うため、一律した目標数値では判断することができない。
- (委員) 学校給食は消費期限があるのか。例えば、お昼までに食べ終わらない場合、持ち帰ることはできるのか、また、その日の夕方ぐらいまで食べる事が可能であれば、残った給食をクラブ活動や部活後に、おにぎりにして食べるとか、残らないようにする方法を検討していただきたい。
- (事務局) 「学校給食衛生管理基準」に、調理後2時間以内にできるだけ食べきるという決まりがある。
- (委員) 先ほど、個人差があるとの意見が出たが、うちの子に限ると食が細いため、給食を残すというのがすごくプレッシャーとなる。

イ 市の事業について

事務局より「千鳥学校給食センターの次期事業」及び「学校給食センター夏休み見学会」について説明した。